

## 就任ご挨拶

本日開催されました第64回通常総会ならびに総会後に開催されました理事会において、会長に選任いただき佐野前会長から会長職を引き継ぎました島本恭次でございます。

創立68年という長い歴史と伝統を有する「火力原子力発電技術協会」の会長を仰せつかり、身に余る光栄と存じますとともにその責任の重さに改めて身の引き締まる思いでございます。

全力で職責を全うしてまいります所存でございますので、よろしくお願いいたします。

改めて申し上げるまでもございませんが、本会の設立目的は「発電技術等の発達改善を図り、もってわが国経済の発展に寄与する」ことであります。

この使命達成のために、まずは火力発電および原子力発電に関する技術等の調査研究や規格基準等を作成する調査研究事業、協会誌や技術基準書等を発行する発刊事業および火力原子力発電大会の開催や火力発電 EXPO の共催といった発電技術の普及のための事業である普及事業の基盤 3 事業を、充実・発展させてまいりたいと考えております。

次に協会を取り巻く情勢に目を向けますと、昨年から見直し作業が行われていた「エネルギー基本計画」の改正案が、5月に公表されました。「エネルギーミックス」の数値目標の見直しには踏み込まないとは言え、「再生可能エネルギーは主力電源」と位置づけられるなどマスコミでも話題となりました。一方話題にはなり難いのですが、電力の安定供給にとって今しばらくは、火力発電と原子力発電が主要電源であり続けることに変わりはありません。むしろ変動性の再生可能エネルギーが大量に導入されてまいりますと、特に火力発電の役割である「調整力」の重要性が増すとともに、脱炭素化・デジタル化の流れと相まって、求められる技術は複雑・多様化し難易度も増してくることが想定されます。そうしたエネルギー供給基盤の大きな変化に備えるべく、技術開発や人材育成の重要性は益々高まるものであり、決して歩みを止めてはなりません。

協会ではこうした問題にいち早く着目し、協会のリソースを活用して調査研究に取り組んでいるところでございますが、今後さらに力を入れて取り組んでまいります必要が

あると考えております。

また、業界全体の技術・保安能力の維持向上や技術の継承・後進の育成といった課題も、協会として一層注力すべき重要な課題と考えています。

協会には、高度な技術や長年に亘り培ってきた「技術力」や「ノウハウ」をお持ちの会員が大勢いらっしゃいます。そうした会員の皆さんと協力して、これまでの取り組みを継続・発展させ、こうした新たな課題の克服にもお役に立ちたいと考えております。

さらに、欧州発電技術協会（VGB）との技術交流等を通じて火力原子力発電に関する欧米の先進事例をしっかりと勉強し、会員の皆さまに情報提供するとともに、国内の電力システム議論が現実に対応したものとなるよう、中立的な公益機関として正確でタイムリーな情報発信にも積極的に取り組んでまいりたいと思います。

最後になりますが、東日本大震災以降の歴代会長のもとで鋭意取り組んでまいりました会員サービスの向上、経費削減や業務の効率化にも気を緩めることなく愚直に取り組む、財務基盤の健全化を目指してまいります。

協会発展のために会員の皆さまと一緒に汗をかいてまいりたいと思います。皆さまの変わらぬご支援ご協力をお願いいたしまして、会長就任に当たってのご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

平成30年6月13日

一般社団法人火力原子力発電技術協会  
会長 島本 恭次